

最終回

# 続 ふるさとこぼれ話

おおき 青木の観腸先生 23 俳句の嶺南吟社

観腸は酒井良清先生の俳号である。戦後、戦友であった茂木町の大兼水雲に勧められ、俳句を始めた。俳句結社「嶺南吟社」を主宰し、同人には金敷白羊司、鈴木仁智林、塩田勉、関静雲、荒井青波、佐藤白蛾洞、高久竹心、螺良芽久美、黒崎花迷、小林鯉汀、宮田志行らがいた。観腸毛や南高根沢公民館などで月1回の句会を催した。時には町内外で吟行会を行ったり、ほかの俳句結社との交流会を開いたりした。嶺南吟社同人の合言葉は「俳句する人は苦しみなさい。その苦しみは楽しみを深くする」であった。

観腸先生は、俳句の季語や句作を通して大地と大気、四季の移ろいのエネルギーを自らの体と心に取り込み、医療と福祉活動に献身したのである。

観腸先生の俳句は、町の広報誌文芸欄に毎号のように掲載され、その他作り貯められたものが句集『往診』第1集、第2集に収められている。これらの中から10句を紹介する。

○ 癌診るや心に寒き嘘ついて

続・ふるさとこぼれ話は今回で終了です。



▲嶺南吟社の月例会

- 寒月やわが晩節を汚すまじ
- 妻ありてわれ生く勤労感謝の日
- 山笑う今日も往診こんにちは
- 福祉こそ地の塩なれや冬木立
- 我が道は医の道一つ初詣
- 頼られて術なきくすし秋暑し
- 汗に生くなお現役の医師として
- ステテコに白衣纏うて当番医
- 喜寿となるいのちを包む麻浴衣
- 終わりに、父・観腸を偲ぶ長女・節子さん、二女・真理子さんの俳句を2句ずつ紹介する。
- (節子さん)
- 医者といふ天命に生き菊の棺
- 赤ひげといはれし父に今年米
- (真理子さん)
- 往診の終わりはいつも星月夜
- 町医者を全うしたり昔の花

続・ふるさとこぼれ話は今回で

## しまたかしの 芳賀の自然 42



### メスグロヒョウモン

チョウ目タテハ科

写真提供=芳賀町自然に親しむ会 撮影場所=町内

分布=北海道～九州  
 生息地=森林周辺(原野や草地は少ない)  
 時期=6月～10月  
 発生=1回/年  
 食性=各種スミレ類  
 吸蜜=アザミ・クリ・オカトラノオ  
 大きさ=開帳70mm(羽を広げた最大値)  
 特徴=雌雄で色彩・斑紋が大きく異なり、雄は一般的なヒョウ柄、雌はイチモンジチョウに似ている。

### 編集後記 ● 広報はが10月号

□皆さん、タウンレポート下段のイラストがリニューアルしたのに気づかれていますでしょうか。

8月号から変更をしました。3カ月ごとに四季のイラストに変わっていきます。先月号からは秋バージョン。きれいで、ほのぼのする感じに仕上がって良かったと思っています。

今後も皆さんに親んでもらえる広報紙づくりを目指していきま

(Y)



▲マンジュシャゲ(上延生)

◎編集 芳賀町広報広聴委員会

☎028(677)6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp

◎発行 芳賀町企画課

栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地

◎芳賀町ホームページアドレス

http://www.town.haga.tochigi.jp

④芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
 ESPA：環境保護印刷推進協議会  
 http://www.espa.com